

Q

農業大学校移転に伴う環境課題

A

企業誘致と環境保全の両立へ

宮崎 弘子 議員

質問一 湧水及び敷地内を流れる水路の確保や生態系存続のためには、現敷地の2分の1の確保が必須と考えるが、市の見解は。

二 この地域の地下水採取にかかわる工業用水法等の規制について。
三 市街化調整区域であることから、工場排水の規制について。

答弁一（市長） 農業大学校移転後の跡地活用に関しては、企業誘

致と自然環境保護のどちらか一方だけでなく、両者を両立させ、市民の暮らしやまちづくりに生かしていく。

二 工業用水法の規制区域外だが、埼玉県生活環境保全条例の第1種指定地域となり規制を受ける。動力を用いて地下水を採取する者は、吐出口の口径によって届出又は許可が必要であり、水量測定



緑豊かな農業大学校内の林

器を設置し、採取量を記録して知事に報告する必要がある。
三 水質汚濁防止法によって工場や事業場からの排水に対して水質基準が適用される。さらに埼玉県では、同法の上乗せ条例及び埼玉県生活環境保全条例によって、より厳しい排水基準が適用される。
◎その他の質問
一 市民バス、乗合タクシーの試験運行について
二 ごみの減量化に向けての課題

Q

全国学力テストの活用は

A

課題解決に全力で取り組む

金泉婦貴子 議員

質問一 これまでの調査結果から見えてくる学力・生活習慣に関する課題と傾向について。

二 取り組みの状況について。
三 幼児期の教育経験の差は。
四 改善された点は。
五 小・中学校との連携は。
六 今後の対応について。

答弁一（教育委員長） 小学校では国語、算数ともに、活用する力が弱い傾向にある。

また、家庭において学習する時間が少ない、授業の復習をする児童が少ないなどの傾向が見られる。
二 学習状況調査結果を分析し課題解決のための取り組みを行う。



三 学習状況調査の正答率は、高い順に幼稚園、保育所、どちらでもないの順であった。

四 多くの項目で改善。特に家族と夕食を共にすることにより、子どもたちが落ち着いた生活をしている。
五 小・中双方の教師が共通した課題を協議し、共通認識の上で指導している。

六 学力の課題に合わせた質の高い授業となるための指導手法の研究と、生活リズムの中に家庭学習の時間の位置付けを行う。
◎その他の質問 市民協働と生きがいづくり